



温泉ライター
小暮 淳さん・56歳
朝倉町

群馬の温泉を守り続けたい

県内の温泉地を飛び回っているフリーライター。群馬の温泉を紹介する本6冊を著作したほか、新聞などにコラムを執筆。出版社に勤務していたときに自身が編集長を務めた雑誌で温泉を特集したこと、フリーに転身したきっかけ。

「県内にある100カ所以上の温泉地の半数以上が一軒宿ということが分かったのです。たった1軒で温泉地の名前を守っている温泉宿のことを納得できるまで取材し、書いてみたいと思いました」

ところが多いことに気付いた。「一軒宿が廃業することは、1つの温泉地がなくなるということです。この5年間で4つの温泉地名が消えました」この現状を打開するための取り組みも始めた。けがや病気を癒す湯治場という、温泉本来の姿に着目し、障害者などの利用を推進する。

「障害のある人たちにたくさん利用してもらうことにより、温泉地の再生を目指します。そして群馬は湯治の地として世界に発信し、パラリンピックの選手たちに訪れてもらえたらいいですね」

2020年までに県内の全温泉地を紹介する本の出版を目標としている。



この連載では、市民に寄稿してもらい、さまざまな角度でアーツ前橋を紹介します。第11回は、群馬大教育学部附属特別支援学校高等部主任の菅野剛さんです。

生徒の余暇活動を広げたい

菅野 剛さん・44歳

本校は小学部から高等部まで51人の知的障害のある児童生徒が学ぶ特別支援学校です。高等部では、生徒が卒業後、社会の中で自立・社会参加ができるよう、週3日、作業学



習の時間を設けて、勤労の意識や他者とのコミュニケーション力を高める活動に取り組んでいます。平成25年度からは「まちなかサロン」で喫茶店「群大附特カフェ」『スマイル』をオープン。喫茶サービスを通じて人と関わる力を高め、地域の中で人の役に立つ喜びを得られるような活動をしています。

生徒の就労において、働く力と余暇を楽しむ力は表裏一体であると捉え、余暇活動の指導にも力を入れています。本年度は高等部の生徒がアーツ前橋で美術作品に触れる活動を行いました。「白川昌生ダダ、ダダ、ダ 地域に生きる想像☆の力」や「音色を奏でる絵画たち」の展覧会に足を運び、作品を鑑賞。白川さんが開催するワークショップでは、生徒たちが夢中になって作品づくりに取り組んでいました。今後もアーツ前橋などの地域の美術館を活用することで、生徒が卒業しても芸術に触れる余暇活動を楽しめるようにできたらと考えています。

問い合わせは
アーツ前橋 ☎027-230-1144

クローズアップ

自慢の一品で勝負

2月22日、服部栄養専門学校校長の服部幸應さんを審査委員長に、前橋おもてなし料理コンテストを開催しました。前橋産食材を生かした765点の応募から選ばれた22人が競い合い、青柳美保さんが最優秀賞に。入賞作品などは今後、お弁当の一品料理などで商品化されます。

コンテストの様子を動画で公開しています。

スマートフォンからのアクセスは右記の二次元コードを読み取ってください。

YouTube <http://youtu.be/dc8Dl4rV8Nc>



新校舎に新たな歴史を刻む

2月26日、第五中で新校舎の竣工式を開催。全校生徒と地域の代表者などが新校舎の完成を祝いました。新校舎には太陽光発電設備や防災倉庫、地域活動室も新設。生徒たちの学びや触れ合い、地域防災の拠点としての歴史が、新たに始まりました。



真下三起也議長



阿部忠幸副議長

市議会の正副議長決まる

第1回定例会市議会が3月3日に開会しました。新しい議長には真下三起也議員を、また、副議長には阿部忠幸議員を選出。平成27年度の一般会計予算などについて、審議をしています。本会議では代表質問や総括質問などが行われ、会期は3月26日(木)までです。